

竹見台小学校・南竹見台小学校統合についての説明会資料

平成14年(2002年)11月16日

[これまでの検討経過]

本年4月に保護者説明会および地域説明会を開催しました後、5月27日に学校・PTA・地域諸団体の各代表者の方々による統合準備委員会を設置し、統合に伴う諸問題等について検討協議を重ねていただきました。その内容が別紙資料のとおり意見書としてまとめられました。

	開催日	内 容
第1回統合準備委員会	5月27日	趣旨説明、委員長・副委員長選出など
第2回統合準備委員会	6月25日	統合することのメリット等について
第3回統合準備委員会	7月24日	統合後の新しい学校づくりについて
第4回統合準備委員会	8月28日	統合後の学校施設等について
第5回統合準備委員会	9月25日	統合後の学校づくり・統合後の学校施設について
第6回統合準備委員会	10月16日	統合後の学校づくり・統合後の学校施設について
第7回統合準備委員会	10月30日	統合準備委員会の意見のまとめについて
第8回統合準備委員会	11月13日	統合後の学校名について、意見書(案)について

平成14年11月 日
(2002年)

吹田市教育委員会 様

竹見台小学校・南竹見台小学校
統合準備委員会
委員長 田 辺 妙 子

竹見台小学校と南竹見台小学校の統合についての意見書

本年3月4日教育委員会において平成15年(2003年)4月に竹見台小学校と南竹見台小学校を統合する実施計画がまとめられ、両小学校の保護者や地域への説明会が実施された後、竹見台小学校・南竹見台小学校統合準備委員会(以下「準備委員会」という。)が設置された。この準備委員会は、学校・PTA・地域諸団体の各代表者19名が委員となり、教育委員会を事務局として、平成14年(2002年)5月27日より11月13日まで計8回にわたって開催し、統合に伴う諸問題等について協議を重ねた。とくに「統合後の学校の教育内容」と「統合後の新校舎の整備」については教育委員会より案が示され、それをもとに様々な角度から検討を行った。この準備委員会で協議した内容を以下のとおり取りまとめ教育委員会に提出する。教育委員会が今後竹見台小学校と南竹見台小学校の統合を進めるにあたっては、この意見書が十分尊重されるよう強く要望する。

1 統合後の新しい学校づくりについて

竹見台小学校と南竹見台小学校は、ほとんどの学年において1学級という非常に小規模な学校となっている。両小学校においては、この小規模校という特徴を生かして、これまで児童一人ひとりに目の行き届いたきめの細かな指導や、学校施設を存分に活用した教育活動が行われてきた。両小学校を統合するにあたっては、これまでの小規模校の良さを生かしながら、さらに統合によるメリットが大きい学校になるように願う。

とくに、統合することにより地域内に小学校・中学校が1校ずつになることや、これまで小中連携に取り組んできた経緯も踏まえて、小中一貫教育を推進し9年間を見通したより効果的な指導のあり方を研究するとともに、市内各小・中学校に情報を発信するモデル校づくりが行われることを期待する。その際、小中一貫教育の具体的な取組みとして準備委員会において教育委員会より示された次の内容が実践されるよう強く要望する。

(1) 基本的な考え方

小中一貫教育の推進により9年間を見通したより効果的な指導のあり方等を研究し、市内各小・中学校に情報を発信するモデル校をめざす。

平成15年(2003年)4月より次のような取組みを推進する。

(2) 小中一貫教育のめざす内容

9年間を見通した教科カリキュラムの構築

- ・ 基礎基本の定着を図るため、まず国語・算数(数学)のカリキュラムづくりから始める。
- ・ 研究を進める一環として、小学校教員と中学校教員によるTT(ティームティーチング)授業などを行う。
- ・ 小学校高学年に教科担任制を導入するとともに、加配教員の獲得により年間を通して国語・算数・理科などの教科で少人数授業などの指導方法の工夫改善を行う。

9年間を見通した国際理解教育の推進

- ・ 小学校1年生から英語に親しむ時間を設定する。
- ・ 英語活動支援者や英語指導助手(AET)等を活用するとともに、海外留学生や地域在住の外国人ボランティアとの交流などに積極的に取り組む。
- ・ 小学校教員、中学校教員、教育委員会の指導主事、英語指導助手(AET)等でチームをつくり、9年間のカリキュラムづくりをする。

9年間を見通した情報教育の推進

- ・ 情報教育担当教員、中学校の技術科教員、教育委員会の指導主事等でチームをつくり、9年間のカリキュラムづくりをする。

行事等における交流

- ・ 小学校学校行事への中学生の参加、中学校学校行事への小学生の参加を推進するとともに、小学校・中学校が合同で実施できる行事についても考える。
- ・ 学校行事と地域行事の合体についても考える。

異学年交流の推進

- ・ 給食・清掃・遊びなどでの交流、中学生との部活動での交流などを推進する。

教員の交流

- ・ 小・中学校合同の研究組織を設置し研究の推進にあたりるとともに、合同研修会を実施して共通理解を深める。
- ・ 部活動指導の相互支援体制をつくる。
- ・ 9年間の発達段階に応じた生徒指導のあり方について情報交換や合同研修等を行いながらより適切な指導を行う。

(3) 小中一貫教育を推進するための支援

文部科学省の「学力向上フロンティア事業」、大阪府の「明日を拓く学校づくり推進事業」(小・中学校間いきいきスクール)などの国や府、市の研究指定を受け、小中一貫教育の研究に取り組む。

少人数指導を行うための加配教員の配置(府へ強く要望する)

英語活動支援者や英語指導助手(AET)等の定期的な派遣により英語活動への支援を行う。

教育委員会指導主事の定期的な派遣により、教科・国際理解教育・情報教育などのカリキュラムづくりの支援を行う。

小中一貫教育の推進を支援するために、大学の研究者や教育委員会指導主事、保護者代表などを含めた組織を設置する。

2 統合後の学校施設の整備について

統合後の学校施設については、大規模な改修や整備を行い、子どもたちが新たな気持ちで学校生活を送れるよう教育環境の整備をお願いしたい。その際、子どもたちができるだけ伸びやかにゆったりと過ごせる空間を確保するとともに、安全面への配慮や小中一貫教育を推進するための整備が十分に行われることを願う。その具体的な整備内容として、準備委員会において教育委員会より示された次の内容が実施されるよう強く要望する。

(1) 使用する校舎について

- ・ 竹見台小学校の全校舎・体育館・プールおよび南竹見台小学校2階部分を全面改修して使用する。改修にあたっては、できるだけ明るい雰囲気になるよう努める。運動場については両校の運動場を合わせて使用する。
- ・ プールについては、できるだけ早い時期に移設ができるよう小学校敷地内に場所を確保するが、当面はプールに移動するアクセス方法の改善を行う。
- ・ 平成15・16年度は、南竹見台小学校の現校舎を使用し、その間に竹見台小学校の耐震補強工事および全面改修工事、運動場の排水工事を実施する。
- ・ 平成17年度新校舎に移った後、南竹見台小学校2階部分の改修を行う。

(2) 具体的な整備内容について

- ・ 竹見台小学校北棟1階部分を内廊下に改修する。
- ・ 耐震補強工事のため普通教室として使用が困難な教室が6教室生じるが、これらの教室については、保管室・教材資料室・校務作業室などに使用するほか、扉が2ヶ所確保できる場合は少人数授業や更衣室などとして活用する。
- ・ 竹見台小学校2階職員室前のスペースをオープンスペースとし、高学年図書室、低学年図書室、調べ学習室、コンピュータスペースなどを配置して、子どもたちが自主的に学習に取り組む空間にする。また、このオープンスペース内に竹見台小学校・南竹見台小学校の思い出を残す資料コーナーを設置する。
- ・ 南竹見台小学校2階にランチルームを設置する。また、ふれあいルームを設置し、地域の方々と児童との交流や会議などに使用できるよう整備する。
- ・ 南竹見台小学校の1階と3階に通じる階段は閉鎖する。ただし、跡利用の用途によって児童との交流が考えられる場合は開閉できるようにする。
- ・ 竹見台小学校1階の休養室の場所に校務員室を移し、校務員室の場所を給食施設の拡張に充てる。

- ・ 校長室横の職員トイレは撤去し、北棟2階コンピュータ室横のトイレを職員トイレとする。職員室北側の一角を校長室・会議室・放送室・電話室として整備する。職員室南側の電話室は撤去する。職員室からオープンスペースが見渡せるよう可動式の壁にする。
- ・ 体育館は、竹見台小学校の体育館を全面改修する。
- ・ 竹見台小学校のプールを改修するとともに、更衣室の拡張と整備を行う。
- ・ 校舎からプールまでのアクセスとして、陸橋を渡って行き来ができるようにする。陸橋にはスロープを設置する。この陸橋については、プールへのアクセスとして使用するだけでなく小学校と中学校の交流を推進するために活用する。
- ・ 竹見台小学校の運動場の排水工事を行う。
- ・ トイレの全面改修を行う。
- ・ 正門の改修を行う。
- ・ 全普通教室にLANを整備する。
- ・ 全普通教室に天井扇風機を設置する。
- ・ 校長室・職員室・図書室・オープンスペース・ランチルーム・ふれあいルームにクーラーを設置する。
- ・ 校舎外壁塗装、窓サッシの改修、屋上防水工事を行う。
- ・ エレベーターを設置する。

(3) その他

- ・ 竹見台中学校についても、全普通教室へのLANの整備やトイレの改修、校長室・職員室へのクーラーの設置などの施設整備を行う。

3 統合後の学校の校名について

統合後の学校の校名については、児童・生徒・保護者の意見も聞いて決めることが望ましいと判断し、竹見台小学校・南竹見台小学校・竹見台中学校の各家庭へのアンケート調査を実施した。この結果を踏まえて検討し、統合準備委員会では「千里たけみ小学校」とすることを決定したが、教育委員会においてはこの決定を十分尊重されるよう要望する。

4 統合実施に伴うその他の要望

(1) 地域諸団体の活動への配慮について

学校が統合されることにより、現在小学校区単位で設置されている地域諸団体の活動等にも大きな影響が出る。各団体においては、これまでそれぞれの地域の中で様々な活動に取り組んできた経緯があり、簡単に組織を統合したり活動を一本化したりすることが困難な場合も考えられる。そのため、将来的には地域の組織も一つに整理統合していくことが望ましいとは考えるが、一定の移行期間を設けながら、

活動が縮小化することなくスムーズに組織の統合が進められるように引き続き行政の支援と配慮が行われるよう要望する。

(2) 跡利用について

統合により学校が使用しなくなる施設については、有効に活用されなければならないが、学校施設が竹見台地域の中心にあり、地域における身近な公共施設であることから、地域の生活や学校の教育活動と密接に結びついた跡利用が行われることを要望する。